

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	新潟大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ニイガタダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F115110105046
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	新潟県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	1・2年生対象 長期・企業実践型プログラム
	学部・研究科等名	教育・学生支援機構
	担当教職員名・役職	高澤陽二郎・助教、箕口秀夫・教授
	受講者数実績年度	令和3年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	23
	受入企業等数	12
	受入企業等名	令和3年度は、新潟県内企業6社（アクシアルリテイリング(株)、(株)博進堂、三幸製菓(株)、(株)新越ワークス、(株)堀内組、(株)システムスクエア）、経済同友会会員所属企業6社（主に首都圏）を受入先として実施した。なお、経済同友会会員所属企業については、経済同友会版インターンシップ推進協会の枠組のもと、同協会が会員所属企業とのマッチングを行った。
	インターンシップの分類	1.長期（概ね1か月以上）インターンシップ 2.有給インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年（大学1年次～2年次程度）からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ 11.その他
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	「有給」「他県をまたぐ」は、受入企業によって異なる。
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決（例：ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等）
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	受入企業によって内容は異なるが、企業の日常業務への従事、事業課題に対する検討と提案、社員との懇談やワークショップなどを行う。業務・課題への取組の例を以下にいくつか示す。 ●スーパーマーケット業界でのエシカル消費推進に向けた調査提案 ●建設業界への若者入職促進に向けた地域内オンライン・インタビューと提案 ●自治体と一体となった産業観光推進のための地域内企業リサーチ・企画立案 ●フルオンラインで、他大学の学生とのグループワークを主とした課題への取組・発表
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している

要素②		7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
		8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年
		大学 学部2年
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 6単位	
2-5.上記回答内容に関する詳細	<p>本科目は、全学部の1・2年次学生対象の教養科目として開講している。第2ターム（6～8月）に、主に大学での事前学修（2単位）を実施した後、夏期休業期間中の3～5週間程度で企業実習に参加、及び大学での事後学修・成果報告会（4単位）を行う。</p>	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
		2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
		3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している	
	3.その他	
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	<p>実習中に学生が記入する活動日報に対し、受入企業の担当者が毎日～週単位でフィードバック・コメントを行い、それを教員とも共有している。</p>	

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	全15コマ程度で、個人作成課題は授業外の学習時間での準備を促し、授業時には、受講生同士のグループワークや発表の機会を極力取り入れている。また、その他にも、受入企業の担当者や前年度の受講生をゲストに迎えて話を聴くなど、企業実習を最大限活かすためのマインド面の準備が整えられるよう工夫した。また日常の大学生活での学びとインターンシップ経験との関連づけを学生が意識できるよう指導している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	レポートの提出、及び受講生が全員集まって互いの振り返りを確認し合う場を設けることで、企業実習での学び・自身が決めた目標や行動指針の達成度・今後の大学生活での目標等を言語化させている。成果報告会は受入企業担当者や学内教員が参加しており、一般学生や高校生等にも広く公開している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	実習中に学生が記入する活動日報に対し、受入企業の担当者が毎日～週単位でフィードバック・コメントを行い、それを教員とも共有している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている  3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	2～5週間。2週間のインターンシップに参加する学生については、別な企業で別途1週間程度のインターンシップにも参加することで、受講者全員が計3週間程度のインターンシップ実施期間を確保している。
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している  2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している  3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている  4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している

		5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
		6.企業と協働して、P D C Aを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	受入企業とは教員が事前に面談を行い、趣旨の確認や受入プログラムの打合せを行っている。また、大学での事前学修時に、企業個別の実習内容に沿った課題等を与え、実習期間の業務がスムーズに遂行できるよう配慮している。実習開始後には、学生の活動日報に対して企業担当者もフィードバックし、教員と共有することで、学生のPDCAサイクルを共有して指導に役立てている。実習後は数値・コメントを含む評価シートを企業でも作成している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www.iess.niigata-u.ac.jp/epc/cco/rishu_list.html">http://www.iess.niigata-u.ac.jp/epc/cco/rishu_list.html</a>
問い合わせ先	大学等名	新潟大学
	担当部署名	学務部教務課連携教育支援室
	担当者役職名	連携教育企画係長
	担当者氏名	佐藤 亜紀
	電話番号	025-262-6309
	メールアドレス	<a href="mailto:renkeikyoiku@adm.niigata-u.ac.jp">renkeikyoiku@adm.niigata-u.ac.jp</a>